

エジプト

第一世界大戦中、イギリスの保護国(1914)とされていた。

- 1918年 サアド=ザグルールは、【1: 】を結成。反英独立運動を始める。ワフドとは「代表」の意味。
 1922年 **ワフド党**、ほぼ独立を達成。ムハンマド=アリー朝の【2: 】(1922-52)が立憲王国として独立。
 これは形式だけで、事実上イギリスの占領が続いた！
 イギリスは、エジプトの防衛権・【3: 】地帯駐屯権(1954年撤兵)・スーダン領有権を持ち続けた。
 1924年 ワフド党、政権につく。
 …… (省略) ……
 1952年 エジプト革命。 これ以降は本書No.195参照
 1953年 エジプト共和国成立 ナギブ → ナセル

アフガニスタン

1919年、新王朝成立。イギリスから完全独立。

No.146参照

- 1919年 新王朝は独立を宣言。侵入してきたイギリス軍と戦う。
 …… (省略) ……
 1919年 第3次アフガン戦争の結果、**ラウルピンディー条約**で、イギリスはアフガニスタンの独立を正式に認めた。
 立憲君主制の下で近代化に着手した。
 その後、**1979年のソ連の軍事介入**(1988年撤退)は悪名高い。→アメリカの娯楽映画「ランボー 怒りのアフガン(1988)」。
 ソ連軍の撤退3年後にソ連崩壊。

イラン

カージャール朝イランは、第一次世界大戦中は中立を宣言しながら、イギリス・ロシアの占領下におかれていた。ロシア革命後はイギリスがイラン全土を支配していた。 No.146参照

- 1921年 【4: 】(レザー=シャー)がクーデターで政権を握り、イギリスから独立。
 1924年 議会は、**カージャール朝の廃止**を決定。
 1925年 レザー=ハーンは、【5: 】を創始し、立憲君主制にもとづく近代国家の建設をめざした。
 パフレヴィー1世ではなく、レザー=シャー=パフレヴィーと称した。
 1935年 レザー=ハーンは、国名をペルシア(他称)から【6: 】(自称)に改称した。
 国内の石油利権は、イギリスの手に残された。
 …… (省略) ……
 1979年 国王パフレヴィー2世の親米・独裁政権に対するシーア派イスラーム原理主義勢力による革命。
 指導者は**ホメイニ**。反米・反ソ政権が成立、産油制限で第二次石油危機を起こす。

アラビア半島

No.147で詳述。以下は要約・再掲

- 1902年 【7: 】1880-1953 決起。
 1924年 【7】のもとで強化したネジド王国は、フセインを破りヒジャーズ王国を倒して、ヒジャーズ=ネジド王国を建て、アラビア半島を統一。
 メッカ、メディナを確保。
 1932年 【7】は、【8: 】※1を建国した。

- 1) **フサイン=マクマホン協定**(1915年、英が英国治下のアラブ人に独立を約束)は戦後無視された！シリア、レバノン、パレスチナはフランスの、**イラク**、**トランスヨルダン**、**パレスチナ**はイギリスの**委任統治領**となった。
- 2) イギリスは、フセインの三男(即位後はファイサル1世)をイラクで、次男(即位後はアブドゥッラー1世)をトランスヨルダンで王位につけ、**イラク王国**(1921年成立、1932年独立)、**トランスヨルダン王国**(1928年独立、1946年完全独立)を成立させた。ファイサル1世の在位は1932-33年と書かれることが多いが、それは独立(1932)後を正式の国王としたからであり、**実質即位は1921年である**。**パレスチナをヨルダンから分離して**、【9: 】の**入植**を認めた。
- 3) フランスの委任統治下にあったシリアでは、1941年にレバノンが分離され、43年に独立。46年にはシリアも独立した。
 ※1 サウジアラビア王国は、現存。イスラームの聖地メッカ、メディナの守護者、**世界最大の産油国**、**国連の原加盟国**、**親アメリカ国**である。



カフカス地方

カフカス地方でもロシア革命の際に独立政権の樹立が試みられた。トルコに対抗するため赤軍の支援を求めたことから、1922年、この地方は**ザカフカス連邦**としてソ連を構成する一共和国になったが、1936年には民族別に3つの共和国に分かれた。

a:ジョージア(旧称グルジア) b:アゼルバイジャン c:アルメニア

アフリカにおける民族解放運動

19世紀から各地で抵抗運動が起きた。

1) 宗主国による人種差別、モノカルチャー的農業、徴兵

- ①南アフリカ連邦では、【10: 】体制が確立した。南ローデシアやケニアでも同様。
- ②自給用食料生産にかわって、【11: 】などをプランテーションで栽培。
- ③第一次世界大戦では強制的に徴兵された。

2) アフリカ民族運動の2つの流れ

ア) アメリカ合衆国とカリブ海地方で活躍するアフリカ系知識人らが中心となって、欧米を舞台とした解放運動が行われた。これを【12: 】という。

19世紀末から、アフリカ系諸民族の主体性の回復、独立と統一をかかげる。

- ①1900年 ロンドンで植民地主義反対、人種差別反対の会議が開催された。
- ②1919年 (パリ講和会議開催中) アメリカの黒人解放運動指導者デュボイス1868-1963 が、パリで会議を開催し、アフリカ植民地の段階的な自治獲得を決議した。第二次世界大戦後、①②は合流した。

イ) アフリカに住むアフリカ人による民族主義運動

- ①1912年 南アフリカで「南アフリカ原住民族会議」(SANNC)が創設された。

直訳するところなるが、「原住民族」は現代では不適切な表現であり、現在では「アフリカ先住民族会議」と訳す。

「南アフリカ原住民族会議」は、1923年、【13: 】(ANC)に発展した(現南アフリカ共和国与党ANCである)。ANCは、マハトマ・ガンジーの**非暴力主義**を継承した(武装闘争を実行した時期もあるようだ)。反アパルトヘイト闘争で獄中27年(1962-90)の不屈の闘志、マンデラはANCのメンバーである。1991年、アパルトヘイトは撤廃され、【14: 】は大統領に就任(1994-99)した。

- ②1920年、イギリス領ガーナで【15: 】が開催された。民族主義運動推進のための会議である。

1940年代、【16: 】(1909-72 厳密にはンクルマ)は、「ゴールドコースト会議人民党」を結成、民族運動を推進した。1957年、【17: 】は**最初の黒人アフリカ独立国家**となった。

第二次世界大戦後、アフリカの民族運動の主導権は上記(イ)に移った。

2010 中央大学 (抜粋・改変)

(これ以前を割愛)・・・かつて、オスマン帝国の領土はアジアとヨーロッパにまたがっており、多民族・多宗教国家であったが、バルカン半島の大半を失ったのち、住民多数派のトルコ人は民族意識を強め、みずからを「青年トルコ人」と称した。日露戦争で日本がロシアに戦勝すると、立憲制が専制政治に勝ったとする認識が西南アジアに広がり、「青年トルコ」グループは革命により政権を奪取し、憲法復活を宣言し、(A)の専制支配から立憲制に改めた。これは、第2次憲政期と呼ばれる。

「青年トルコ」政権は、パン=トルコ主義を掲げた。非トルコ系のブルガリアなどバルカン諸国は、これに反発してあいついで独立し、オーストリアによるボスニア=ヘルツェゴビナ併合が行なわれ、イタリア=トルコ戦争、バルカン戦争があいついで起こった。トルコは、第1次世界大戦ではドイツ・オーストリア側について敗れ、オスマン政府は、セーヴル条約を受諾した。その結果、メソポタミア・シリア・(B)を失い、領土はほとんど小アジアに限定された。シリアはフランスの委任統治領となり、イラク・トランスヨルダン・(B)はイギリスの委任統治領となった。

ギリシア軍はイギリスの支援を受け、トルコに侵入しアンカラに迫ったが、(C)はギリシア軍を撃退して独立を守り、オスマン朝の(A)を追放し、(A)制を廃止した。(C)は、連合国とローザンヌ条約を締結し、不平等条約を撤廃し、イズミルなどの領土を回復した。1920年代、トルコはさらに西欧化・近代化の措置に取り組んでゆく。そして、関税自主権を確立し、国際連盟に加入するなど、西欧化による近代国家建設が前進した。(C)は、アタテュルク(トルコ人の父)の称号を贈られた。

オスマン帝国の影響下にあったアラビア半島で、イブン=アブドゥル=(D)は、イスラーム改革運動を起こし、神秘主義批判を行なった。この運動は、アラビアの豪族サウード家の支持を受け、(D)王国が建設された。ムハンマド=アリー朝は、(D)王国を滅ぼしたが、その後、再興され、現在のサウジアラビア王国(サウード家の王国)に至っている。

イランでも、日露戦争における日本の勝利は立憲制によるとして立憲運動が起こり、国民議会が開設された。これは、イラン立憲革命と呼ばれるが、イギリス・ロシアの干渉があり、シャーは国民議会を解散させた。第1次大戦中、イギリス・ロシア両軍に占領されていたイランでは、レザー=ハン(レザー=シャー)がクーデターで政権を握り、イギリスから独立を回復し、トルコ系のカージャール朝を廃してパフレヴィー朝を創始した。彼は、立憲君主制による近代国家をめざし、国号をペルシアからイランに改称した。

アフガニスタンは、イランから自立し、アフガニスタン王国が建てられた。イギリスは、第1次アフガン戦争、第2次アフガン戦争をしかけたが、いずれも撃退された。イギリスは、アフガニスタンを保護国化したが、第3次アフガン戦争をうけてイギリスはその独立を承認するに至った。その後、成立した新王朝はイギリスから完全に主権を回復し、国王を中心とする伝統的統治の強化をめざした。

イギリスは、メッカ太守フサインとその長子アリーをアラビアに、第三子ファイサルをイラクに、第二子アブドゥラーをトランスヨルダンに置き、(B)にユダヤ人の入植を認めた。その後、(B)分割案に基づいてイスラエルが建国され、第1次中東戦争が起こった。第1次中東戦争に敗れたエジプトでは、エジプト革命が起こり、国王を追放して共和国が樹立され、(E)が政権を握った。

問1 (A)~(E)に最も適当な用語を解答欄に記入しなさい。(原問では語群が与えられている)

問2 割愛

正解 問1 A スルタン B パレスチナ C ムスタファ=ケマル D ワッハーブ E ナギブ